

# 日蓮宗 寿量山 本地寺 縁起

## 【本地寺縁起】

当山は、山号を<sup>じゅうりょうざん</sup>寿量山、寺号を<sup>ほんちじ</sup>本地寺という日蓮宗寺院である。寛永18年（1641）のちの京都・<sup>りゅうほんじ</sup>本山立本寺第20世<sup>りょうじゆいんにっしん</sup>靈鷲院日審上人が当国弘通の折、当地住人・<sup>こだまきゆうきゑもん</sup>児玉久左工門氏がその法説に感銘を受け、法華経お題目の教えに<sup>きえ</sup>帰依する。児玉氏は、慶安2年（1649）に大村福重・妙宣寺第4世<sup>せいきやういんにちこう</sup>聖教院日遑上人について得度し、<sup>しゅうきいんにちえつ</sup>宗喜院日悦と改名し刀脇差を売り、釈迦如来像を求め、庚申講の地に庵室を結ぶ。寛文9年（1669）大村古町・<sup>ゆうみやういんにつう</sup>本經寺第5世融妙院日通上人が当地に寺院建立を願い、京都・<sup>ほんこくじ</sup>本山本圀寺へ登山の折、その趣を奏達するところ許容あり寿量山本地寺の称号を賜う。ここに本經寺末寺として正式に建立をなす。

天和元年（1681）第4世<sup>しゅうえんいんにっしん</sup>修圓院日心上人の代に、現在の地に堂宇を移転し現在に至る。融妙院日通上人の師匠、<sup>ほんちいんにっせん</sup>本地院日選上人を開山とし、第2世に融妙院日通上人、第3世に宗喜院日悦上人とする。当山の祖師像は、宗喜院日悦上人が京都本山立本寺より拝受し自ら背負い安置したものである。

現本堂は、明治初年頃に建立をされたもので、鐘楼堂は昭和43年（1968）に再建、位牌堂は日蓮大聖人第700遠忌事業として昭和53年（1978）に建立、客殿庫裡は平成30年（2018）に日蓮大聖人御降誕800年・本地寺開基370年・開山350年記念報恩事業として建立されたものである。